

柱1 ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

<p><b>1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保</b></p> <p>1-1-1 事業活動等から生じる典型7公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。</p> <p>1-1-2 ため池の水質改善を図ります。</p> <p>1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。</p> <p>1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。</p> <p><b>1-2 快適な市民生活環境の確保</b></p> <p>1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。</p> <p>1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。</p> <p>1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対策を図ります。</p>	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0人	B	3人
	A	8人	C	0人
		良好です		
	AA			
	概ね良好です			
A				
	改善・見直しの必要があります			
B				
	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です			
C				

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
I ひと	大気汚染に係る環境基準の達成率 100%	→	他の小学校等で常時、大気汚染状況をモニターリングできる設備の導入を進め、半田市全体の大気観測を実施し、安全で安心できる半田の構築に期待する。
I ひと 4. ため池水調	大気汚染に係る環境基準、河川のBOD濃度については、ほぼ目標（値）を満たしている。	→	ため池の環境保全（除草・清掃）にも期待します。
1. 大気	大気汚染、河川の水質などの典型7公害と公共下水道普及率などが着実に改善されたことは評価できる。	→	
3. 立入	協定工場等に対し、10事業所への立ち入り調査実施は評価できる。	→	協定工場等に対して、少なくとも5年に1回程度は立入調査を実施し緊張感がある状態を保つ事も重要。
4. ため池水調	矢勝川の水質悪化の原因分析のため、ため池での調査を実施し、主な原因を突き止めたこと。	→	ため池の水質浄化に関する施策を効果的に実施することを期待します。
4. ため池水調 7. 川づくり	<池や川の法面の草刈りについて> 本来は池や川の管理者の仕事であるが、市が計画的に実施することは地域住民にとって大変嬉しいことである。	→	この項の柱である「自然環境に配慮した…」活動は、草刈りはそのホンの一部であるが非常に重要である。親しめる水辺創りのためにも回数が増えれば有難い。
6. 河川・海域	矢勝川の水質悪化の原因分析のため、ため池及び支流合流箇所での調査を実施し、主な原因を突き止めたこと。	→	矢勝川の水質向上に向けて、排水を流入させる事業場の環境意識の向上等の施策を効果的に実施することを期待します。
6. 河川・海域	今後の取組として一時的な悪化の分析を切り分けられるよう分析仕様書を変更して改善を図ろうとしていること。	→	収集したデータを、どんなファクターがどう指標に効くのかなど有効に活用できるといい。
6. 河川・海域	矢勝川の水質悪化の原因究明ができたことは評価できる。	→	水質悪化の原因を除去するための取り組みに期待する。

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
10-11-1 臭気（経済） 10-11-2 臭気（環境）	畜産業による臭気の対策として、大学との共同研究を確実に実行しており、新たな知見を得ていること。	→	畜産農家に対する環境対策補助事業の推進、臭気対策の普及啓発・指導等の施策を確実に実施し、市街地において臭気が低減されることを期待します。
10-11-1 臭気（経済） 10-11-2 臭気（環境）	臭気対策としては大同大学の研究成果を活用してなるべく手間のかからない対策を定量的に提示できていること。	→	他にも臭気が少ない飼料の開発などの研究をしている大学？会社？などがあつたと思うので、さらなる研究を活かした対策を打てるとよい。
10-11-1 臭気（経済） 10-11-2 臭気（環境）	大学との共同研究をもとに着実に臭気対策を進めている点。	→	
10-11-1 臭気（経済） 10-11-2 臭気（環境）	臭気対策に対する意識の高揚を図ったことは評価できる。	→	排泄後の糞尿含水率を早く下げる取り組みに期待する。
10-11-1 臭気（経済） 10-11-2 臭気（環境）	以前は、牛舎より遠くの住宅地であっても、湿度や風向きにより臭気があつたが、最近、かなり改善されたように感じる。	→	バイオガス発電に期待する。
14. P & R（再 24）	パークアンドライド定期利用者及び前日定期利用者が上限に達しており、高水準を維持していること。	→	半田市北部の乙川駅や亀崎駅での新規計画を期待したい。
14. P & R（再 24）	雁宿駐車場のパーク・アイランドの推進により、駐車台数 204 台の上限の維持。	→	目標達成で良とするのではなく、ニーズの把握などで更なる駐車スペースの確保と P & R の推進を期待する。
17. 屋外	原因者へ直接改善指導を継続的に実施している点。	→	
19. ふん害	積極的に他市町の施策を取り入れようとしている点。（イエローチョークの試行）	→	

実績報告ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
I ひと	矢勝川の水質について、一向に改善されていない点。調査は改善策ではなく、実態把握と考える。	→	要因が特定できているのであれば、規制はできなくも何らかの対策を試みつつ、改善につなげる必要がある。
I ひと	神戸川、矢勝川、稗田川の BOD 値が改善されない。	→	流量で数値が変わるのであれば、流量の少ない時に計測し 良い数値になるよう対策をする。
I ひと	水質分析調査で BOD、COD、SS、DO とあるが、一般市民には馴染みがなく、理解し難い。	→	例えば、魚が住める環境にするには BOD を 3 mg / ℓ 以上にすると水の透明度に関わる濁度など分かりやすい表現が望ましい。
1. 大気	測定結果をホームページ内の「半田市の環境」で公表した。	→	半田市のホームページがリニューアルされたためか、不明であるが、ホームページに掲載された所を見つけることができなかった。また PC 等を持たない情報弱者への啓蒙が必要。
I ひと 4. ため池調 6. 河川・海域	矢勝川の水質が悪化傾向にあること。	→	平成 30 年度に行った原因分析調査の結果を踏まえ、流域の関係者が主体的にため池及び河川の環境を良くしようとする取組が必要ではないかと思えます。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
I ひと 6. 河川・海域	神戸川のBODはA及びAAが続いていたが、H30年度はB評価である。原因解析が不十分。	→	特定の日のみの要因も想定できるのでチェック・分析の充実を期待します。
I ひと 6. 河川・海域	<川のBOD測定値について> 環境課も十分承知のように流量が少なく、ちょっとした外的要素で数値が大きく変わる。 測定値がどの程度信用できるか判断できない。	→	・年間の測定値の平均といえ、採集時の条件が今一つ定かでないので平均値の信用度が判断できない。 <対策の一例> ・旧暦で測定日時を一定化。 （※二週間おきに、ほぼ、同条件が有る）ただし、前日、当日の大雨は除く。
4. ため池調	ため池について管理されていないもの一部有り。	→	堤防及び排水口付近の草刈りの継続実施
6. 河川・海域	半田市を代表する矢勝川のBODはC評価が続いている。	→	ほぼ原因の特定が出来ていると思われ、それに対する行政としての改善する仕組み作りが必要。
4. ため池調 6. 河川・海域	ため池の水質が改善されていないこと。矢勝川の水質が長期間改善されていないこと。	→	周辺地域からの汚濁成分の流入と、長年蓄積した有機物等による水質が悪化が主な原因とあるが、原因究明が遅い。
10-11-1 臭気 (経済) 10-11-2 臭気 (環境)	畜産業よりの糞尿処理に関して臭気及び処理水の河川流出等に改善の余地がある。	→	畜産業の糞尿処理に関し、バイオマス産業都市構想関連への搬出ルートを確立し補助金交付等を検討しレベルアップを図る。
10-11-1 臭気 (経済) 10-11-2 臭気 (環境)	畜産の臭気公害の発生源が特定されているにも拘らず、半田市の看板の観光資源としての改善は乏しい。今後、更に、知恵を出して改善することが望まれる。	→	発生源に対する法律面、資金援助をも含めた改善を要す。
14. P & R (再 24)	パークアンドライド推進に向け、クラシティー駐車場の24時間定額料金の設定も必要。	→	5F駐車場はいつも空である。
14. P & R (再 24)	交通量の低減対策・交通渋滞の解消についての対策が十分ではない。	→	乙川・亀崎地区での朝の渋滞はひどい。特に亀崎駅周辺の道路及び駐車場の整備は必須である。駐輪場もいっぱい停められない状況である。駅の移動または駅周辺の整備を早急に進めたい。 また、日本福祉大学や半田東高校の学生や生徒のことを考えると、新しく駅を設けることが得策だと考える。それが交通渋滞の解消にもつながる。
18. 雑草	土地や空き家の所有者のモラル向上、及び適切な管理方法の周知と指導について。	→	所有者の高年齢化に伴い、適切な管理をしたくてもできなくなっているときの対策が必要だと考える。
19. ふん害	犬の糞の放置対策として、マナー向上の啓発のみの取り組みに限界があると思う。また、イエローチョーク活動について一般市民は、活動そのものがあること自体、知らないのが現状である。	→	半田市の条例違反であり、罰金もふくめた厳格な対応も啓発活動と合わせて実施すべきである。また、イエローチョーク活動を自治区にPRし、市民全体で活動を展開すべきである。

柱2 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

<p><b>2-1 温室効果ガス排出量の削減</b></p> <p>2-1-1 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します。</p> <p>2-1-2 産業・業務部門での対策を推進します。</p> <p>2-1-3 運輸部門での対策を推進します。</p> <p>2-1-4 家庭部門での対策を推進します。</p> <p>2-1-5 市（行政）において率先して行動します。</p> <p><b>2-2 資源循環型社会の構築</b></p> <p>2-2-1 ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します。</p> <p>2-2-2 リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します。</p> <p>2-2-3 廃棄物の適正処理を推進します。</p> <p><b>2-3 環境に配慮した事業活動を推進します。</b></p> <p>2-3-1 環境マネジメントシステムの導入促進を図ります。</p> <p>2-3-2 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します。</p> <p>2-3-3 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します。</p>	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0人	B	7人
	A	4人	C	0人
		良好です		
	AA			
	概ね良好です			
A				
	改善・見直しの必要があります			
B				
	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です			
C				

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
II 地球	電気・都市ガスの1世帯当たり年間使用量が大幅に減少し、環境配慮型住宅用設備導入件数が目標を大幅に上回っていること。	→	電気・都市ガスの使用量の削減について、市民の意識をさらに向上させるような方策を検討することを期待します。
II 地球	家庭部門CO2排出量が集計されたことは、1歩前進である。	→	その構成、問題点がその中から摘出される事が望まれる。
II 地球 29. 太陽光	太陽光発電システムの導入やCO2排出削減については、目標を達成している点。	→	家庭用燃料電池システム補助金交付事業に繋げて欲しい。
20. 地域計画	半田市役所（本体）における温室効果ガス排出量のデータをホームページにて公表、及び温室効果ガス排出削減に向けた市報での啓蒙を実施した事は評価できる。	→	今後も温室効果ガス排出削減に向けた施策を期待する。
20. 地域計画	CO2の排出量の区域施策編では減少傾向にあるということ。	→	事務事業編での減少も期待したい。
22-1. エネ資源 (再 44-1)	バイオマス産業都市構想の推進。	→	臭気、河川汚濁防止が期待できる。
22-2. エネ資源 (再 44-2)		→	
22-1. エネ資源 (再 44-1)	バイオマス産業都市構想を推進している点。	→	
22-2. エネ資源 (再 44-2)		→	

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
23. 公共交通 25-1. エコモビ	ごんくるバスの導入は今後の高齢化社会及びCO2排出削減に有効である。	→	乗車率向上に向けた施策を実施し、長期的に継続する事を期待する。
30. 率先	各施設の担当課にアンケートを実施し、問題点に気付けたことは評価できる。	→	問題点の改善に期待する。
33. 緑カーテン	<緑のカーテン設置にかかわること> 地味な活動であるが内容に環境に関する複数の項目があり、環境学習としても効果的である。	→	子どもも含めてより多くの人や家族が参加できるよう事業予算をアップしたい。
33. 緑カーテン	市民が暑さ対策としてメリットを享受できる環境題材についてコンテストなり農業高校生による講座など、楽しんでもらいつつ若人と一体になった活動はすばらしい。	→	この取り組みを例えばゴミの減量化や分別などに取り入れられないか？例えば、ゴミの減量化コンテスト、分別を簡単にやるコンテスト、ゴミの減量化をするためには、分別をしないと地球環境がどうなるかなどを工業高校生が講師となった講座を開催するなど…。
33. 緑カーテン	小中学校・児童センター等の公共施設に緑のカーテンを設置していること。	→	緑のカーテンの（冷暖房エネルギー使用量抑制の）効果を見聞へ周知することが期待できる。環境教育につながっている。
33. 緑カーテン	公共施設の設置により市民に温暖化への関心、周知に努めたことは評価できる。	→	今後も工夫して市民にアピールして欲しい。
35. 防犯灯	市民の安全を考えるとなくてはならない外灯・防犯灯のLED化は、毎日使用する電気量（料）だけに非常に効果的な取り組みである。	→	一般家庭においても古い電灯や電化製品の取り換えの推進も必要であると考える。
36. ごみ減啓発	ごみの分析（資源の混入率や食品ロス量）をしている点。	→	このデータを最大限生かしていく循環をどうするか。
36. ごみ減啓発	市民1人1日当たりのごみ排出量は、環境行政の根幹のバロメーターであり、それが着実に改善されつつある。	→	
38. 有料化	段階を踏んで、多くの関係者と意見交換を進めている点。	→	
42. 市民参加リユース	もったいないバザールによるリユースの取り組み	→	単発イベント時だけでなく、恒常的に開設できないか。例えば三鷹市では粗大ごみの持ち込みステーションで、持ち込まれた粗大ごみで使用可能なものを、格安で市民に販売していて非常に人気があった。（月～土まで開設していた。）

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
II 地球	都市ガス、家庭部門CO2排出量の1世帯当たりの年間量がH30年度未記入。	→	最終的に記載願います。
II 地球	総ごみ量、生活系ごみ量が目標値に達していない。	→	
II 地球 36. ごみ減啓発	1人1日当たりの生活系ごみ排出量の削減が、ここ数年進んでいないこと。	→	ごみ排出量削減に対する市民の意識を確実に向上させる施策が必要と思われるます。
II 地球 36. ごみ減啓発	家庭系ごみが増加していること。	→	分別が不十分なごみを出した人へのペナルティーがあまり行われていないことが問題かも。（有料化のタイミングをうまく活用して、分別のPRや生ごみの自家処理等を広めていただきたいです。）
II 地球 36. ごみ減啓発 42. 市民参加リユース	1人1日当たりのゴミ排出量がB評価である。	→	リサイクルのさらなる推進が必要（仕組みのさらなる進化）、及びリサイクル率の評価方法の再検討。

実績報告ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
20. 地域計画 21. 配慮協定（再40） 27. エコライフ	エコ事業所登録数、エコファミリー登録世帯が失速している。	→	①この制度は、市民の環境活動を浸透させる上で、不可欠であるので、再構築をする必要がある。 ②地球環境の保全是、半田市の全ての活動をCO2換算値で捉え、市民に対して、生活との関係を分かりやすく説明する必要がある。その上で、各家庭の身近なCO2の削減活動に結びつける必要がある。
21. 配慮協定（再40）	エコ事業所登録数が伸び悩み傾向。	→	比較的大きな事業所で未登録事業所をピックアップし、加入呼びかけ及び定期的立入の機会を増やす努力も必要。郵送チラシ、メルマガ等による情報発信などにより登録の意義を向上させる必要あり。
23. 公共交通	公共交通機関の利用促進について。	→	半田市北部地区である有協や亀崎ではスーパーマーケットが少なく歩いて行くことは考えにくい。大型スーパーマーケットとの連携を視野に入れたスーパーマーケットに行きやすいバスの運行を考えていく必要がある。今のバス「ごんくる」ではまだまだ買い物利用では不便である。
25-1. エコモビ	ごんくるバスの利用促進およびエコモビリティライフを市民全体で共有していない。	→	市民への更なる啓蒙とポイント制度を取り入れる等で、市民が実践する動機付けが必要。（例：1km以内は徒歩や自転車利用で2ポイント）
25-2. エコモビ	レンタル自転車事業があること自体、一般市民が知らないと思う。	→	観光者に対してのレンタルを意識しているのか分かりませんが、市民にPRすべきである。
28. レジ袋	スーパーだけでなく、ドラッグストアやホームセンター、コンビニなどはレジ袋が配布されている。	→	レジ袋配布することで顧客の確保を図っているが、店にとってはコストダウンにもなるので、そこをもっとPRすべき。
30. 率先	市（行政）の温室効果ガス総排出量及びコピー用紙購入枚数が、平成25年度現状値より悪くなっていること。	→	各部署への働き掛け等を徹底し、全職員の意識を向上させることが必要と思われる。
36. ごみ減啓発	外国人増加に伴い、言葉の問題から3Rの推進が有効に機能しない地域がある。	→	ベトナム人対応のマニュアルが必要と思われる。
38. 有料化 41. 分別	ごみ有料化の手法、影響、効果、の調査・検討について。 市民への分別収集への理解・啓発と周知について。	→	値上げについての意見交換会のチラシには、今の約3倍になるような事が書かれていた。混乱を招くと思った。 紙製容器包装を回収するゴミ袋を自由にすれば購入する必要がなくなり、分別しようとする気運を高められる。また、プラごみを回収する白色のゴミ袋の値段を安くし、生ゴミ等を入れる黄色いゴミ袋の値段を高くし、差を付けることで分別回収が進んでいくと思われる。
43. バイオ	廃食用油のリサイクル目標がない。	→	廃食用油のリサイクル増を図るため、各家庭に廃油を一時貯蔵する容器を配布するなどのインセンティブが必要。
47. 分別啓発	ごみ出しルールの指導を実施し適正なごみ出しを促したとあるが、ごみ出しルールの守られていないごみステーションが多々ある。	→	

柱3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

<p><b>3-1 うるおいのある緑・水空間の整備</b></p> <p>3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します。</p> <p><b>3-2 生物多様性の保全</b></p> <p>3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します。</p> <p>3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります。</p> <p><b>3-3 環境面からの農業振興</b></p> <p>3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します。</p> <p>3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります。</p> <p>3-3-3 地産地消を推進します。</p>	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0人	B	1人
	A	10人	C	0人
		良好です		
		概ね良好です		
	改善・見直しの必要があります			
	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です			

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
Ⅲ自然	半田市は、多岐に渡る緑と水に恵まれ、それが維持され、少しずつ改善されている。	→	
Ⅲ自然	一人当たりの公園・緑地面積が目標を大幅に上回っていること。	→	新規の公園整備事業を推進するとともに、公園の質の維持・向上に努めることを期待します。
56. 七本木（再 89）	七本木池の公園整備	→	多くの方が憩いや健康のために利用していくことが期待できる。
57. 雁宿公園（再 90）	交通公園及びプール跡地の整備事業は、子ども用広場もあり、雁宿公園の駐車場も整備され喜ばれている。	→	今後の維持管理が、にぎわいととも徹底されることを期待します。
57. 雁宿公園（再 90）	雁宿公園の再整備により旧交通公園跡地が整備され休日等は多数の利用者が有りよい。	→	他の施設も利用者増につながる整備を期待します。
57. 雁宿公園（再 90）	南エリアのこども広場、芝生広場、アスレチック広場の整備などが子供連れの親子に有効に利用されていること。また北エリアも花見の名所としてもにぎわいが戻りつつあること。	→	
59. 南吉	新美南吉記念館拡張整備は評価できる。		
62. 生物	<水生生物調査について> 小中学校理解部会と協働での池や川の生物調査事業が数十年継続されている事実は称賛に値する。	→	生きもの採集は、経験も大事であるが、やはり、道具の良し悪しに左右される。適切な道具を準備したい。
62. 生物	水生生物調査、出前講座、自然観察会等を実施することにより、子供たちの環境意識の向上を図っていること。	→	各種環境学習に市民団体等を積極局的に活用し、環境学習の裾野を広げていくことを期待します。
64. 観察	自然観察会を3回実施している。	→	今後も継続される事を期待。

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
64. 観察	「自然観察会」や「親子昆虫観察ツアー」の開催実施により、子供のころより自然環境保全に関心をもってもらう取り組みを行ったこと。	→	親も巻き込んだ、親子ともに参加できる、観察会をより多く企画実施し、子どもとともに親にも関心をもってもらうこと。
64. 観察	自然観察会、親子昆虫観察ツアーの実施は評価できる。	→	生物多様性について学ぶよう期待する。
67. 環境マップ	水辺マップを作成し、啓発資料として自然観察会、出前講座等で活用していること。	→	水辺マップだけではなく、その他の種類のマップも作成するとよいと思います。
69. 外来生物	特定外来生物についての対策について。	→	発見情報の提供を待っているだけでなく、実態調査に出かける必要がある。
70. 優良農地	優良農地の保全確保に努めたこと。	→	農業の推進も高齢化が進む社会では困難なことではあるが、土地の確保はそれ以前に必要なことでもある。
72. 環境保全型	環境保全型農業を行政が支援していること。	→	有機栽培法やそれで利益をどうあげているかを、実際に軌道にのせている人を講師に招いた講座など、育成まで一步踏み込んだ対策があるといい。
73. 市民農園	市民農園の推進。	→	耕作放棄地の有効活用を今後も推進してほしい。 農業教室や家庭菜園講座を開講してほしい。
73. 市民農園 74. 耕作放棄地	耕作放棄地を活用し、市民農園を開設し、市民に農業体験の場を提供していること。 耕作放棄地の再生を支援したこと。	→	耕作放棄地を様々な方策によって減少させることを期待したい。
74. 耕作放棄地	耕作放棄地を再生できる取組主体の支援は評価できる。	→	
74. 耕作放棄地	耕作放棄地対策のために農地パトロール、利用意向調査など踏み込んだ対策を実施していること。	→	条件の良くない放棄地での就農活用事例や就農体験施設の設置など、就農したいけど二の足を踏んでいる人向けの後押し施策があるといい。
74. 耕作放棄地	農地中間管理事業等を活用し、耕作放棄地の発生防止に努めている点。	→	難しい問題ですが、少しでも放棄地を減らす施策に取り組んでいただきたいです。
80. 運河	半田運河周辺の景観整備は日本三大運河らしくなった。	→	小樽運河のように常時出店やグルメ、イベントの開催等を考え、観光名所となることを期待する。

実績報告ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
Ⅲ自然	1人当りの公園・緑地面積は、他の市町村と比較しまだ少なく、その中身も物足りない。	→	
Ⅲ自然 74. 耕作放棄地	耕作放棄地面積の減少がここ数年停滞していること。	→	耕作放棄地の解消と活用について、各種施策を地道に実施するしかないのかもしれませんが、様々な方策を検討していただくください。
Ⅲ自然 74. 耕作放棄地	耕作放棄地面積が高止まりしている。	→	借地したい人もいると思われるので行政として仲介システムを構築し運用できないか。
60. 地域緑化	民有地の緑化工事への補助金交付が1件にとどまっていること。	→	告知が十分ではないのではないかな。
66-2. 生物ため池	生物が生息しやすいため池の保全。	→	外来種の駆除やため池の整備をして欲しい。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
76. 学校給食	学校給食に半田市産の青果・豚肉・牛肉がほとんど使用されておらず、地産地消がなかなか推進されていないこと。	→	規模的・経済的な問題だけではなく、安心・安全という視点で考えられているのか。
76. 学校給食	半田市産の牛肉・豚肉についてブランド品で高価であるため経常的な使用ができない。	→	保護者や児童は半田市産の肉を食べていると思っている。残念なことだ。
76. 学校給食	食育の推進について。	→	半田市の子供・生徒の減少に伴って、市役所の職員の給食もセンターで作り、児童生徒と同じものを食べるようにしていくとよいと思う。特に教育委員会はそうすべきだと思う。
77. 地元	地場農産物の直売の場が少ない。	→	常設の場の提供の検討。

柱4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にすまち

<p>4-1 美しく半田らしい景観の整備</p> <p>4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します。</p> <p>4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承</p> <p>4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します。</p> <p>4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備</p> <p>4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します。</p> <p>4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します。</p>	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	1人	B	0人
	A	10人	C	0人
		良好です		
AA				
	概ね良好です			
A				
	改善・見直しの必要があります			
B				
	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です			
C				

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
IVふるさと	地域の歴史的遺産が整備され、市民に分かりやすく、また、観光資源としても充実しつつあることは評価できる。	→	
78. 景観計画	景観スポットの回遊ルートにサインを設置し、点を線にする改善が図られたこと。	→	景観スポットを回遊するのみ最適な自転車をレンタル自転車として整備してどこの景観スポットでも乗り捨てられるようにすると観光者増につながるのでは？（金沢市が実施）
78. 景観計画	景観計画の推進について。	→	地域の若者を中心とした「亀崎の未来を考える会」を立ち上げ、町づくりの方針を策定したことで、町の活性化が期待できる。
78. 景観計画	亀崎仲町通りまちづくり方針の策定は評価できる。	→	
79. 景観意識	景観についてのコンテストや出前授業など、あまり他にはない取り組みで新鮮味が感じられる。（インスタも導入して時代にマッチ）	→	全国受けする半田にしかないインスタ映えする景観ポイントを探すもしくは作って発信。
79. 景観意識	景観出前講座の実施や、フォトコンテストの実施。	→	半田の魅力をSNSなど使ってどんどん広げていただきたい。
79. 景観意識 80. 運河(再84) 85. ゆかりの地 87. 文化財	運河周辺の景観整備、はんだ山車まつり、南吉関連事業等、歴史的・文化的資源が保全・継承されていること。	→	市民が半田市の歴史や文化を誇りに思えるような意識づけする施策を検討するとよいと思います。
80. 運河(再84)	運河周辺の整備により多くの市民の憩いの場となり、活性化が図られたことは評価できる。	→	是非、景観にふさわしい公衆トイレの設置とその維持・管理を望みます。
80. 運河(再84)	半田運河周辺整備事業は評価できる。	→	イベントで賑わうのも大切、ゆったりと景観を楽しむのも大切。

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
86. レンガ	<赤レンガ建物の”せせらぎ”について> せせらぎの本来の目的はともかく、遊具の無いこのエリアにおいて、この時期、小さな子どもにとっては、極めて有用なものとなっている。	→	特に土曜、日曜日は「流れている水」は当然ながら、水路も「見た目」も清潔に保っていただきたい。

実績報告ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
IVふるさと	半田市は、多くの歴史と遺産を有するが、その説明、プレゼンが未だ他の市町村と比較すると劣る。東海市などの好例に習い、半田市博物館の展示方法などの工夫をすることが必要である。	→	
82. ごみ散乱	ゴミ散乱防止の推進について。	→	衣浦大橋から、阿久比方面に向かう46号線において、衣浦大橋からJR高架下付近までの道路脇にたばこの吸い殻やゴミのポイ捨てが非常に多い。対策が必要だ。

柱5 みんなで環境を守り育てるまち

<p><b>5-1 環境学習の推進</b></p> <p>5-1-1 あらゆる世代への環境学習を支援します。</p> <p>5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します。</p> <p>5-1-3 環境学習指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を養成します。</p> <p><b>5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成</b></p> <p>5-2-1 地域・事業者・行政など各主体間の連携を図ります。</p> <p>5-2-2 各主体間における環境情報の共有及び活性化を図ります。</p> <p>5-2-3 環境NPOや環境保全団体等の育成及び活動を支援します。</p>	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0人	B	1人
	A	10人	C	0人
		良好です		
AA				
	概ね良好です			
A				
	改善・見直しの必要があります			
B				
	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です			
C				

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
V協働 98. 保全活動	環境学習イベント参加人数が、目標を大幅に上回っていること。	→	さらに参加者が増加するよう、今後とも各種事業の継続・新設を行うことを期待します。
V協働 114. アダプト	アダプトプログラム登録者数が、目標を達成していること。	→	今後とも登録者数が増加するよう、PR、支援等の事業を拡大していくことを期待します。
95. 学習体系	環境講座・イベント情報誌の作成は評価できる。	→	
95. 学習体系	環境学習に多くの市民等が参加しやすくなった。	→	環境に対する身近な問題や知識を得た子供や大人が、その知識を活用し、環境を守り育てる活動をしてくれることに期待する。また子供達が故郷意識を持つことを期待したい。
97. 親子	「はんだエコツアー」の環境学習実施。	→	環境について家庭で話題となるような取り組みを企画実施していただきたい。
98. 保全活動 99. 学習情報	環境保全活動への参加として環境学習の推進、情報発信等の取組は良い。	→	今後も回数及び内容等充実して推進を期待します。
100. 地域素材	<p>&lt;環境出前講座&gt;</p> <p>学校近くの川や海に実際に入って魚をつかんだりする活動は今どきの子どもの現状からして極めて貴重である。</p> <p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ等の画面か人工物の遊具に囲まれた生活</li> <li>・川などへは子どもだけでは入れない規則がある</li> <li>・ペット以外の生きものに直接触れる機会がない</li> </ul>	→	川や海に数多くの種類の生きものがいたということが、半世紀後でも、参加した子どもたちの心に残る。

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
100. 地域素材	多面にわたる環境教育を実施していること。	→	教育の中身として半田市の環境で抱えている問題（ゴミ減量、分別、耕作放棄地、河川水質、臭気など）について一方向ではなく市民にも考えてもらう双方向の教育が望ましいし、啓発された市民自身が講師となって教育を提供してもらうサイクルをつくってもらいたい。
100. 地域素材	地域の素材を活かした環境学習は評価できる。	→	
100. 地域素材	環境学習は、将来の環境保全に、極めて重要である。その観点から、地道に展開していることは評価できる。	→	
102. 稲作	農業体験を通じた環境学習は、食育や労働体験を含めて地域を連携した良い手法であると思う。	→	
102. 稲作	稲作・酪農体験について	→	子ども達の環境学習の推進だけでなく、豊かな心の教育にも、つながっている。ありがたいことである。
103. 企業支援	はんだエコツアーの実施は評価できる。	→	
105. 教員	教職員への研修について	→	教職員の理科研究部会を活用することや環境教育を進めている企業と連携して学校教育に活かすことで、教職員に資質向上につながっている。

実績報告ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
V協働	アダプトプログラムは環境の専門用語であり、分りづらい。その意義と具体的な実践法を分かりやすく説明し、着実に展開する必要がある。	→	
95. 学習体系	いろんな講座に目標を大きく超える参加者がいたことは評価するが、情報発信では市報やホームページでPRのみでは、不十分である。	→	蔵のまち防災アカデミー（防災リーダー養成講座）のように、自治区を通じて募集を掛ける等で環境保全活動の中心的人材の育成が必要。
101. 学校 EMS	小中学校における環境マネジメントシステムの導入が現時点で難しいとされている点。	→	学校でのアクティブラーニングの流れにのせていくような方策など、実現可能性が十分に検討されていないと思われる点。
101. 学校 EMS	現在の教育環境で各小中学校にEMSの導入が難しい。	→	EMSの知識を持った職員の配置を行い、各学校全体で勉強しながらEMSを導入すべきである。（ISO14001の認証はともかく）
103. 企業支援	大人向けの環境学習が不足しているように感じる。区長会等の組織にも呼びかけ協力をお願いする必要がある。	→	サミット半田パワーの見学では、もっと参加者を増やす努力をすべき。事前のPR不足だと思います。
104. 養成講習 106. 人材活用	人材（環境学習指導者等）の活用が不十分。	→	環境課として橋渡しをする等より充実し活用の場を広げること。
106. 人材活用	環境学習ボランティアの養成事業がもう少し活発になり、活用の場が増えるとうよいと思います。	→	大学生を対象にして養成講座を募集するなど、環境学習ボランティアの人材の発掘や養成にさらに注力していただきたい。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
109. 環境情報	<p>＜環境情報の発信＞                      情報を市の「ホームページに掲載」とあるが、それではと思って探そうとしても、何か、非常に探しにくい。                      ※環境関係は「まち・環境」から入っていくのが普通であろうが目的ページに、なかなか、到達しない。</p>	→	<p>例えば、理科部会による池や川の生きもの調査結果。</p>
114. アダプト (再91)	<p>アダプトの考え方は、特に問題ないが、他部署との連携が必要である。</p>	→	<p>土木課より、自治区に対し側溝・ます・水抜き孔や、水路内柵（スクリーン）に土砂や葉などのごみの除去や道路の簡易補修の実施を依頼されているが、アダプト登録者は、ボランティア保険があり、自治区のボランティアには、付帯されない。</p>